

田所屋敷と田所古墳と三宅古墳 (五日市町史上巻 131 頁～141 頁) 広島市佐伯区三宅町 (旧佐伯郡三宅村)



田所古墳周辺の出土品  
写真は昭和三十七年頃の  
畑より発掘。(非公開)



田所古墳出土品  
(大井邸前の畑より昭和五年発掘・大井氏所蔵)  
写真の出土品は古墳後期の須恵器。右が須恵器の横瓶一個。この横瓶は古墳時代後期で年代は七世紀後半の優品である。主に貯蔵用具のひとつ。古墳の副葬品。左が須恵器の平瓶一個。主に儀式に使用。古墳の副葬品。箱の大きさは三〇cm四方の立方体。(非公開)



田所古墳(三宅)田所古墳五日市町史上巻一三八頁(一三九頁)  
写真は昭和三十七年頃。大井邸南前方の石垣角下が田所古墳。昭和五年に七世紀後半の須恵器が発掘された。(非公開)



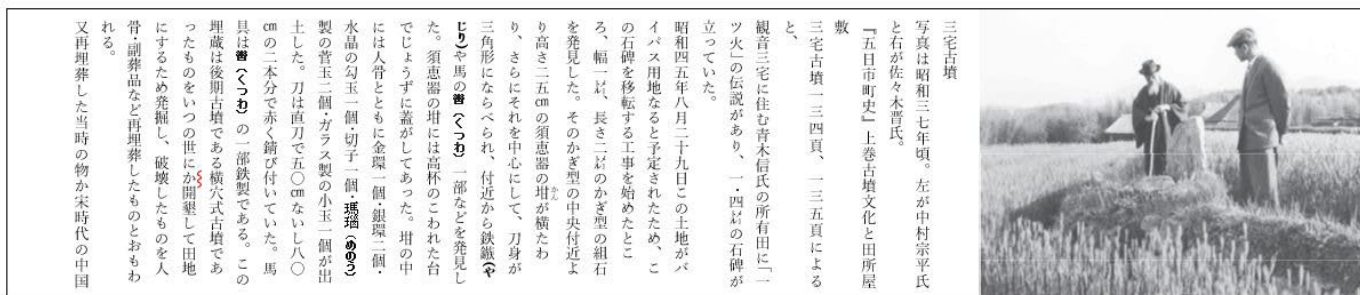
右から佐々木晋氏、中村宗平氏、児玉静人氏(児玉氏宅にて)。三氏の皆様の御協力で、これらの資料が出来た。又佐々木晋氏の記録された写真と裏書きにより、昭和三十七年頃の宮島カントリー倶楽部五日市コース前方の田所屋敷跡や、田所古墳や三宅古墳の記録が残された。



昭和三十七年頃の田所屋敷跡  
(宮島カントリー倶楽部五日市コースの一部)  
五日市町史上巻古墳文化と田所屋敷一四三頁によると  
田所屋敷  
田所は田荘とも書き大化の改新以前の大和の豪族もしくは豪族の地方における土地の所有形態で、天皇・皇族の所有地が屯倉といったのに対し、豪族の所有地を田荘といった。



伝田所古墳出土品の埴仏と伝えられる。  
(大井氏所蔵)  
埴仏(せんぶつ)は、かつて中国の北魏から唐代に発展し、日本には七世紀に伝来し、発達したレリーフ形式の仏像。(非公開)



三宅古墳  
写真は昭和三十七年頃。左が中村宗平氏と右が佐々木晋氏  
「五日市町史上」上巻古墳文化と田所屋敷  
三宅古墳一三四頁、一三五頁によると、  
観音三宅に住む青木信氏の所有田に、二ツ火の伝説があり、一四枚の石碑が立っていた。  
昭和四五年八月二十九日この土地がパイパス用地になると予定されたため、この石碑を移転する工事を始めたところ、幅一尺、長さ二尺のかぎ製の組石を発見した。そのかぎ製の中央付近より高さ二五cmの須恵器の埴が横たわり、さらにそれを中心にして、刀身が三角形にならべられ、付近から鉄鍬やドリや馬のくつむし一部などを発見した。須恵器の埴には高杯のこわれた台でじょうずに蓋がしてあった。埴の中には人骨とともに金環一個・銀環一個・水晶の勾玉一個・切子一個・瑪瑙(めのう)製の普玉二個・ガラス製の小玉二個が出土した。刀は直刀で五〇cmないし八〇cmの二本分で赤く錆び付いていた。馬具はくつむしの一部鉄製である。この埋蔵は後期古墳である横穴式古墳であったものをいつの世に開墾して田地にするため発掘し、破壊したものを人骨、副葬品など再埋葬したものとおもわれ、再埋葬した当時の物が宋時代の中国



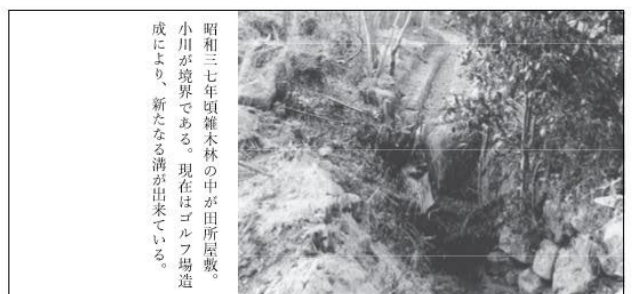
写真は昭和三十七年頃。宮島カントリー倶楽部五日市コース前方の林が田所屋敷跡。(非公開)



写真は三宅古墳の出土品。  
鉄刀と鉄鍬やドリ等。  
広島県立埋蔵文化センター保管



写真は三宅古墳の出土品。  
金環一個・銀環一個・水晶の勾玉一個・切子一個・瑪瑙製の普玉二個・ガラス製の小玉一個。  
広島県立埋蔵文化センター保管。



昭和三十七年頃雑木林の中が田所屋敷。小川が境界である。現在はゴルフ場造成により、新たな溝が出来ている。